

## 18 地域医療

横浜市では、救急医療を始め、市民の方々が必要とする医療を、必要な時に、身近なところで受けられる体制を整えるため、地域中核病院の整備など、地域医療体制の確保・充実を進めています。

### 1 救急医療

横浜市の救急医療体制については、救急患者が発生した場合の受入体制を(1)注射や簡単な投薬、小さな外科的処置などで帰宅することができる患者に対する初期救急医療体制、(2)入院加療を要する中等症、重症の救急患者や初期救急医療施設からの転送患者に対する二次救急医療体制、(3)初期や二次救急医療施設からの転送患者と重篤救急患者を受け入れる施設で心筋梗塞、脳卒中、多発外傷等の救命医療を行う三次救急医療体制の三段階に分け、体系的・機能的に整備を進めています。

#### (1) 初期救急医療

##### ア 横浜市夜間急病センター（横浜市救急医療センター 中区桜木町1-1）

夜間における初期救急医療に対応するため、内科・小児科は毎夜間午後6時から深夜0時まで、眼科・耳鼻いんこう科は毎夜間午後8時から深夜0時まで診療を行っています。なお、深夜0時以降の内科・小児科は、基幹病院で対応しています。

横浜市夜間急病センターは、平成18年7月1日から、指定管理者制度により管理運営されています。

横浜市夜間急病センター診療科目別患者数の推移 (単位：人)

年 度	総 数	内 科	小 児 科	眼 科	耳鼻いんこう科
平成17年度	45,934	14,501	16,907	5,603	8,923
平成18年度	36,158	10,549	11,833	5,296	8,480
平成19年度	33,988	10,265	10,426	4,894	8,403

深夜帯（午前0時～午前6時を含む）

##### イ 横浜市北部夜間急病センター（横浜市都筑区牛久保西1-23-4）

北部方面の夜間の初期救急医療に対応するため、内科・小児科の診療を毎夜間午後8時から深夜0時まで行っています。

横浜市北部夜間急病センター診療科目別患者数 (単位：人)

年 度	総 数	内 科	小 児 科	そ の 他
平成17年度	16,131	3,630	10,855	1,646
平成18年度	14,687	3,342	9,784	1,561
平成19年度	12,085	3,035	7,727	1,323

##### ウ 横浜市南西部夜間急病センター（横浜市泉区中田北1-9-8）

南西部方面の夜間の初期救急医療に対応するため、内科・小児科の診療を毎夜間午後8時から深夜0時まで行っています。

横浜市南西部夜間急病センター診療科目別患者数 (単位：人)

年 度	総 数	内 科	小 児 科	そ の 他
平成17年度	11,005	2,853	6,904	1,248
平成18年度	9,578	2,621	5,866	1,091
平成19年度	9,139	2,571	5,471	1,097

#### エ 休日急患診療所

休日昼間（年末年始は12月30日から1月3日）の初期救急医療に対応するため、各区に設置され、主として内科・小児科を概ね午前10時から午後4時まで診療を行っています。金沢区と戸塚区の休日急患診療所では歯科の診療も行っています。

休日急患診療所診療科目別患者数の推移（各区患者数の合計）（単位：人）

年 度	総 数	内 科	小 児 科	歯 科	そ の 他
平成 17 年度	62,520	21,109	32,515	877	8,019
平成 18 年度	58,198	20,290	29,578	816	7,514
平成 19 年度	57,548	21,375	28,020	736	7,417

オ 基幹病院

市内 7 か所の小児救急拠点病院で、深夜帯の内科・小児科の初期救急患者の診療を行っています。

基幹病院の患者数（単位：人）

年 度	総 数	内 科	小児科
平成 18 年度	20,258	9,965	10,293
平成 19 年度	19,102	8,990	10,112

(2) 二次救急医療

ア 病院群輪番制

二次救急医療に対応するため内科・小児科・外科系と急性心疾患の患者について、病院群輪番制により、毎夜間午後 6 時から翌朝 7 時までと休日昼間（年末年始は 12 月 30 日から 1 月 3 日）午前 10 時から午後 5 時まで診療を行っています。

内科・外科系について、市内 3 ブロックに各 1 病院を配置し、小児科については、市全域で 2 病院で、急性心疾患については、全市域を 1 病院で対応しています。

病院群輪番制ブロック別行政区一覧

ブロック	行 政 区
北 部	鶴見、神奈川、港北、緑、青葉、都筑
西 部	西、保土ヶ谷、旭、戸塚、泉、瀬谷
南 部	中、南、港南、磯子、金沢、栄

夜間・病院群輪番制診療科目別患者数の推移（単位：人）

年 度	総数	内科	小児科	外科	急 性 心疾患	その他	入院患者（再掲）					
							総数	内科	小児科	外科	心疾患	その他
平成 17 年度	32,289	11,003	12,751	5,863	411	2,261	4,749	2,297	12,751	874	162	417
平成 18 年度	32,592	11,702	12,265	6,033	406	2,186	4,703	2,192	941	988	165	417
平成 19 年度	30,383	11,693	10,174	6,641	401	1,474	4,490	2,210	805	1,027	171	277

休日・病院群輪番制診療科目別患者数の推移（単位：人）

年 度	総数	内科	小児科	外科	急 性 心疾患	その他	入院患者再掲					
							総数	内科	小児科	外科	心疾患	その他
平成 17 年度	7,257	2,370	2,291	1,639	60	897	896	413	160	182	24	117
平成 18 年度	8,358	2,747	2,785	2,047	80	699	947	472	171	192	36	76
平成 19 年度	8,249	2,687	3,055	2,075	61	371	1,023	477	230	253	20	43

イ 小児救急拠点病院事業

市内 7 か所の小児救急拠点病院で 24 時間救急医療体制を整備することにより、小児科専門医による休日夜間の小児科医の当直体制を確保し（24 時間 365 日小児救急体制）、小児科二次救急医療の充実を図っています。

小児救急拠点病院患者数の推移（単位：人）

年 度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
患者数	25,028	34,760	38,071

#### ウ 母児二次救急システム

母胎及び新生児の異常を早期発見・早期対応するため、二次救急病院と産婦人科診療所等との連携を強化し、救急患者の円滑な受け入れを行っています。

母児二次救急システム患者数の推移（単位：人）

年 度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
患者数	315	236	239

### (3) 三次救急医療

#### ア 救命救急センター

三次救急医療に対応するため、救命救急センターが昭和大学藤が丘病院、済生会横浜市東部病院、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター（市大センター病院）国立病院機構横浜医療センターに整備されています。

救命救急センター患者数（入院）の推移

（単位：人）

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
総 数	5,918	5,630	7,609
昭和大学藤が丘病院救命救急センター	1,360	1,280	1,133
済生会横浜市東部病院救命救急センター			2,239
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院救命救急センター	1,770	1,845	1,815
市大附属市民総合医療センター救命救急センター	1,161	893	832
国立病院機構横浜医療センター救命救急センター	1,627	1,612	1,590

#### イ 周産期センター

ハイリスクの妊産婦、胎児、新生児の救急医療に対応するため、周産期センターが神奈川県立こども医療センター、横浜市立大学附属市民総合医療センター（市大センター病院）、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院に整備されています。

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院周産期センター患者数の推移（単位：人）

年 度	総数	新生児	産科
平成 17 年度	188	115	73
平成 18 年度	134	78	56
平成 19 年度	233	155	78

#### 【参考】

周産期センターを有する病院の救急患者数（入院）の推移（単位：人）\*

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
県立こども医療センター**	1,031	1,137	1,238
市大附属市民総合医療センター総合周産期母子医療センター	1,008	1,015	976

\* 各病院の年報より抜粋 \*\* 病院全体の救急患者数

### (4) 救急告示医療機関等

救急患者を受け入れる医療施設として「救急病院等を定める省令」に基づいて県知事から告示された医療機関は、市内に救急病院が 59 か所、救急診療所が 2 か所あります。（平成 20 年 4 月 1 日現在）

また、救急患者の医療確保のため、積極的に救急医療に協力した医療機関に対し、助成金の支給を行

い救急医療機関の確保に努めています。

(5) 横浜市救急医療情報センター（横浜市救急医療センター内）

平成 18 年 7 月 1 日からは、指定管理者制度により管理運営されています。

ア 医療機関案内

横浜市救急医療情報センターでは、市内の医療機関の情報を収集し、市民や医療機関などからの問い合わせに対して、24 時間 365 日体制で情報提供を行っています。

横浜市救急医療情報センター問い合わせ先別取扱件数の推移（単位：件）

年 度	総数	医療機関				消防	県中央情報センター	市民	その他
		総数	病院	診療所	休日急患診療所				
平成 17 年度	179,426	9,190	8,147	857	186	390	27	167,876	1,943
平成 18 年度	171,242	7,872	7,198	554	120	281	8	161,623	1,458
平成 19 年度	187,785	8,472	7,798	552	122	388	18	176,884	2,023

イ 小児救急電話相談

平成 18 年 7 月 1 日から、小児の急病やケガなどの際に、看護師が応急処置や対応方法を助言する電話相談を平日は 18:00～24:00、土曜日は 13:00～24:00、日・祝・年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）は 9:00～24:00 の間、実施しています。

小児救急電話相談の年齢別件数（単位：件）

年 度	総数	0～1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7～14 歳	その他
平成 18 年度	19,122	5,329	4,155	2,306	1,971	1,708	1,293	1,956	404
平成 19 年度	29,129	8,522	7,611	3,716	2,614	2,035	1,486	2,652	493

(6) 横浜救急医療チーム（YMAT）

YMAT は、横浜市内で発生したけが崩れや列車脱線事故などの災害で、複数の重傷者や多数の負傷者が発生した場合などに、消防との連携により迅速に災害現場に出動し、救命のための的確な医療活動を展開します。平成 20 年 3 月、救命救急センターを有する市内 5 病院において YMAT を編成しました。

(7) 地域医療救護拠点

地域医療救護拠点は、大震災発生時の臨時救護所として平成 7 年度から整備が開始され、中学校区ごとに 1 ヶ所、市内 146 ヶ所に整備されています。（平成 20 年 4 月 1 日現在）

各拠点に、創傷、打撲、骨折、熱傷等に対応できる医薬品及び医療資機材を備蓄し、大震災発生時には、医師・薬剤師・看護師等による医療救護隊が編成され、被災者の応急医療を行います。

2 地域医療対策

喫緊の課題である産科医療体制の確保対策、保健医療人材の養成・確保対策、在宅療養連携の推進などに取り組んでいます。

また、地域医療の基盤整備のため、高度で専門的な医療サービスを提供する地域中核病院の整備などを行っています。

(1) 緊急産科医療対策

安心して出産できる環境を確保するため、平成 19 年度から緊急産科医療対策に取り組んでいます。

具体的には、妊産婦健診は診療所で行い、出産は病院で行うセミオープンシステムを推進するとともに、助産師が活躍できる環境の整備として、助産師の職場復帰研修や、勤務助産師の技術向上研修を実施しています。

そのほか、出産できる医療機関等についての情報を、本市ホームページで提供しています。

## 助産師研修実績

	実施回数 (回)	延べ参加 者数(人)
潜在助産師研修 講義編	1	40
実技編	-	99
勤務助産師研修 個別実技編	-	38
合同実技編	1	31

### (2) 看護人材確保対策

急速な少子・高齢化の進展や医療の高度化により、保健医療業務に携わる看護人材の養成・確保とその資質の向上が必要になっています。

そのため、横浜市医師会及び横浜市病院協会が設置する看護専門学校の運営や、市内医療機関及び神奈川県看護協会が行う再就職促進の研修等に対し助成を行っています。

また、市内医療機関合同の就職説明会及び5月12日の「看護の日・看護週間」での記念行事等を行っています。

### (3) 地域中核病院

地域中核病院は、二次から三次医療に対処しうる医療提供体制整備の一環として

- ・ がん、急性心疾患、脳血管疾患等、重篤患者に対する高度な医療の提供
- ・ 24時間365日体制での救急患者の受入れ
- ・ 市内に不足する政策的医療の提供

等を目的に、本市が事業主体を誘致することにより方面別に整備を進めています。

これまでに、南部病院、西部病院、横浜労災病院、北部病院、東部病院（平成19年3月開院）の5病院を整備しました。

また、本市で6番目の地域中核病院となる南西部地域中核病院として、独立行政法人国立病院機構横浜医療センターを位置付けることとしています（平成22年4月予定）。

#### ア 恩賜財団済生会横浜市南部病院

南部病院は、本市と済生会が共同で建設し整備したものです。本市の南部地域における地域中核病院として、地域医療機関との密接な連携のもとに診療を行い、地域の医療水準の向上に寄与しています。

- ・ 運営主体 恩賜財団神奈川県済生会
- ・ 所在地 港南区港南台三丁目2番10号
- ・ 開設年月 昭和58年6月
- ・ 病床数 500床
- ・ 診療科目 18科
- ・ 特色 24時間365日救急、災害医療拠点病院、地域医療支援病院

#### イ 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院

西部病院は、本市が聖マリアンナ医科大学を誘致し整備したものです。本市の西部地域における地域中核病院として、地域医療機関との密接な連携のもとに診療を行い、地域の医療水準の向上に寄与しています。

- ・ 運営主体 学校法人聖マリアンナ医科大学
- ・ 所在地 旭区矢指町1197番地の1
- ・ 開設年月 昭和62年5月
- ・ 病床数 518床
- ・ 診療科目 26科
- ・ 特色 救命救急センター、周産期センター、災害医療拠点病院

#### ウ 横浜市北東部中核施設横浜労災病院

横浜労災病院は、本市が厚生労働省の所管する特殊法人である労働福祉事業団（平成16年4月から独立行政法人労働者健康福祉機構）を誘致し整備したものです。本市の北東部地域における地域中

核病院として、地域医療機関との連携のもとに診療を行い、地域の医療水準の向上に寄与しています。

- ・運営主体 独立行政法人労働者健康福祉機構
- ・所在地 港北区小机町 3211 番地
- ・開設年月 平成 3 年 6 月
- ・病床数 650 床
- ・診療科目 23 科
- ・特色 24 時間 365 日救急、災害医療拠点病院、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、労災医療、勤労者医療

#### エ 昭和大学横浜市北部病院

北部病院は、本市が昭和大学を誘致し整備したものです。本市の北部地域における地域中核病院として、地域医療機関と密接な連携のもとに診療を行い、地域の医療水準の向上に寄与しています。

- ・運営主体 学校法人昭和大学
- ・所在地 都筑区茅ヶ崎中央 35- 1
- ・開設年月 平成 13 年 4 月
- ・病床数 661 床
- ・診療科目 6 センター14 科
- ・特色 24 時間 365 日救急、災害医療拠点病院、緩和ケア医療、老人性認知症医療、精神科救急医療

#### オ 済生会横浜市東部病院

東部病院は、本市が恩賜財団神奈川県済生会を誘致し整備したものです。本市の東部地域における地域中核病院として、地域医療機関と密接な連携のもとに診療を行い、地域の医療水準の向上に寄与しています。

- ・運営主体 恩賜財団神奈川県済生会
- ・所在地 鶴見区下末吉 3-6-1
- ・開設年月 平成 19 年 3 月
- ・病床数 554 床
- ・診療科目 16 センター 5 科
- ・特色 救命救急センター、災害医療拠点病院、地域医療支援病院、精神科救急医療、重症心身障害児（者）施設併設

#### 地域中核病院の入院患者数の推移

(単位：人 ( )内：1日平均)

年 度	南部病院	西部病院	労災病院	北部病院	東部病院
平成 17 年度	168,073 (461)	158,592 (435)	221,809 (608)	212,239 (582)	- -
平成 18 年度	166,867 (457)	156,133 (428)	206,604 (566)	212,387 (582)	- -
平成 19 年度	158,965 (434)	152,793 (418)	225,417 (616)	212,154 (580)	132,784 (365)

#### 地域中核病院の外来患者数の推移

(単位：人 ( )内：1日平均)

年 度	南部病院	西部病院	労災病院	北部病院	東部病院
平成 17 年度	388,886 (1,457)	333,377 (1,239)	485,899 (1,991)	365,955 (1,249)	- -
平成 18 年度	366,096 (1,366)	324,446 (1,206)	468,553 (1,913)	379,053 (1,294)	- -
平成 19 年度	354,738 (1,334)	325,115 (1,200)	445,589 (1,823)	393,458 (1,343)	155,848 (137)

\* 東部病院については 19 年度、段階的に開床